

第53回全日本特別支援教育研究連盟全国大会宮崎大会

平成26年10月30日(木)・31日(金)に全国研究大会が宮崎の地で初めて実施されました。

この程、大会収録をいただきましたので、木犀会ホームページを通して大会の概要を報告いたします。

あいさつ

全日本特別支援教育研究連盟全国大会宮崎大会実行委員長

田中 正利 (県立みなみのかぜ支援学校長)

全国各地で日々特別支援教育に携わり、子どもたちの成長・発達にご尽力いただいております皆様方を「太陽と緑の国」宮崎県宮崎市にお迎えし、第53回全日本特別支援教育研究連盟全国大会宮崎大会を開催できますこと、この上ない喜びであり、心より感謝申し上げます。自然豊かな神話の国宮崎、第53回にして初めて宮崎で開催されることとなり、3年前から実行委員会を立ち上げ、こつこつと地道ではありますが、背伸びをせず、宮崎らしさ、宮崎ならではの大会を目指して、県全体を組織化し、準備に取り組んでまいりました。



さて、教育界においては、平成24年7月に中央教育審議会の初等教育分科会において「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」が出され、特別支援教育のさらなる充実と推進がまとめられています。

幼稚園・保育所(園)、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等においては、子どもが将来において自立し社会参加できるよう、一人一人の可能性を引き出し伸ばすための教育と医療機関・療育が推進されてきました。また、より具体的な社会参加へつなぐことができるよう、発達段階や年齢に応じて小中学校等と特別支援学校との連携、教育と医療機関・福祉機関・労働機関等との連携を図ってきました。

さらに、我が国は「障がい者の権利に関する条約」の批准書を国連に寄託し、本条約は本年2月19日に我が国において効力を生ずることとなりました。そのため、わが国に障がい者の権利に向けた取り組みが強化され、人権尊重についての国際協力が一層推進されることとなります。この条約の理念が目指す共生社会の形成に向けてのインクルーシブ教育システムを構築していくための制度改革の実施や教職員の研修の充実、合理的配慮の充実、必要な財源の確保など、一つ一つ実施していく積み上げが大切かと感じております。

本大会では、「共に育ち共に築き 共に輝く子どもたち～一人一人のニーズに応じた魅力ある教育を目指して～」と題して、2日目の分科会では、第1分科会を特別講演会として特色を持たせ、また第16分科会の「健康安全教育」では、忘れてはならない喫緊の課題でもある防災教育に焦点を絞らせていただきました。19の分科会のそれぞれ一つ一つに特色を持たせ、宮崎ならではの取り組みで設定いたしました。共生社会の形成に向けた一つの取り組みとして、この大会を全国の皆様方と「ともに」協議し、特別支援教育が目指すものを一歩でも前進できる実りある大会にできますことを願っております。

I 大会主題 **共に育ち 共に築き 共に輝く子どもたち**
～一人一人のニーズに応じた魅力ある教育を目指して～

2 趣 旨

平成24年7月に中央教育審議会の初等中等教育分科会において「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進が出され、特別支援学校等においては、子供たちが将来において自立し社会参加できるよう、一人一人の可能性を引き出し伸ばすための教育・保育・療育が推進されてきた。また、より具体的に社会参加へつなぐことができるよう、発達段階や年齢に応じて小中学校等と特別支援学校との連携、さらには教育と医療機関・福祉機関・労働機関等との連携を図ってきた。

こうした中で、宮崎県では、「未来を切り拓く心豊かでたくましい宮崎の人づくり」をスローガンとし、「障がいのあるなしにかかわらず、多様な個人が能力を発揮しつつ、同じ社会に生きる人間としてお互いを正しく理解し、共に助け合い、思いやりを大切に、地域に愛着を持って、支え合って生きていくという共生社会を目指す特別支援教育」を推進している。

私たちは、すべての子どもたちが、楽しく主体的に学び、心身ともに豊かな生活を送ることができるよう、日々の教育実践に情熱と責任をもって取り組まなくてはならない。本大会では、全国からの実践を持ち寄り、学びあうことで、参加者に視野を広げ、特別支援教育のさらなる充実・発展につながることを期するものである。

3 期 日 平成26年10月13日(木)・14日(金)

4 会 場 第1日 (全 体 会) …… メディキット県民文化センター
第2日目 (参観授業及び分科会) …… 宮崎市内の小中学校
及び特別支援学校他

5 参加者 全日本特別支援教育研究連盟構成団体会員、幼稚園・保育園所(園)・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学の職員、特別支援教育研究者、関係団体の方、特別支援教育に関心のある方

6 日 程 ○ 第1日目
○ 第2日目 ※ 後述



7 記念講演

「40年間の戦力として」



有限会社 エス・ケイ・フーズ 取締役 中村 こずえ 氏

中村氏は宮崎のご出身、現在は長崎にてマクドナルド店を数店舗経営されておられる。店では戦力として9名の障がいのある子どもたちが働いている(内 知的障害7名、知的障がいと自閉症のある子ども2名)。この9名の一人一人が店で戦力になるまでの中村氏の愛情と根気と努力、考え方の変遷、社員への教育等について、涙ぐましい実践、その中の喜びについての盛りたくさんの内容です。

(※ 集録には全て記載されています。)

8 開催地研究報告

宮崎県立延岡しろやま支援学校 仲家 孝 教頭

～～3障がい部門別の専門性を基盤に部門間が連携して教育を行う
新たな教育システムの構築に関する実践研究～～

しろやま支援学校は平成21年3月まで、肢体不自由児が通う「延岡わかあゆ支援学校」、聴覚障がい児が通う「延岡ととろ聴覚支援学校」、知的障がい児が通う「延岡たいよう支援学校」が延岡総合特別支援学校として、県立延岡西高等学校の跡地に「県立延岡支援学校として平成24年4月に設立されました。

この2年間、3障がい部門間が連携して教育を行う新たな教育システムの構築について実践研究に取り組んできた内容です。

・・・(※ 詳しくは集録をごらんください)・



日程のあらまし

第1日目 (全体会) : メディキット県民文化センターにて

第2日目 (参観授業及び分科会 : 分科会は19の分野にわたって実践報告・協議)

: 宮崎市内の小学校。中学校・特別支援学校他

第1分科会	特別分科会	第2分科会	就学相談の体制
第3分科会	小学校における特別支援教育	第4分科会	中学校における特別支援教育
第5分科会	高等学校における特別支援教育	第6分科会	生活単元学習
第7分科会	日常生活の指導	第8分科会	作業学習
第9分科会	教科別指導①	第10分科会	教科別指導②
第11分科会	通級による指導	第12分科会	自立活動
第13分科会	職業教育と進路指導・就労支援	第14分科会	キャリア教育
第15分科会	交流及び共同学習	第16分科会	健康安全教育(防災教育)
第17分科会	特別支援教育コーディネーターの役割とセンター的機能	第19分科会	学校経営と校内体制
第18分科会	I C Tの活用		

編集後記より

本大会は、全国各地から約700人を超す参加者があり、盛会のうちに幕を閉じることができました。

宮崎県は13校の特別支援学校(内 知的障がいは9校)と11地区に分かれた小・

中学校特別支援教育会が中心となって活動しています。本大会を開催するに当たり、これらの学校・研究会等が一体となって、全県挙げて大会の準備及び提案発表に取り組んできました。また、保育所(園)・高等学校等の協力もあり、本大会を通じて宮崎県の特別支援教育がより一体感を増し、今後の活動へ確実につなげていきたいと思ひます。

全体会では、研究報告、行政説明、基調報告、記念講演等を設置し、それぞれの内容が大変充実しており、時間を延長してお聞きしたいものばかりいでした。特に記念講演では、中村氏より、障がい者の就労について経営者の立場からの考えや思ひを提言していただいた。講演を通して、「卒業後の生活をよりよいものにするためにはどうすればよいか」ということを学校・保護者・企業・福祉等、様々な立場のものが様々な視点で常に考え続ける必要を改めて感じました。

大会2日目は、宮崎市内13箇所の学校や研究施設において19分科会が行われ、多方面から多くの方に参加いただき、活発な討議がなされた。「共生社会」や「一人一人のニーズに応じた教育」を実現するための多様で柔軟な対応や仕組みを「ともに」模索することのできた実り多い時間となりました。参加者の皆様から「とても参考になった」「参加してよかった」等の意見をいただき、関係者一同、大変うれしく思っています。

※ 以下省略させていただきます。



※ 宮崎大会 本当にお疲れ様でした。今後、さらに実りある実践ができますことを心から応援いたしております。宮崎大会要項並びに大会集録から引用させていただきました。ありがとうございました。

木犀会理事 安部